

【暗唱聖句】

「わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである」ヨハネ 10:10

【日曜日・喜び】

第一ヨハネ 1:4 「わたしたちがこれらのことを書くのは、わたしたちの喜びが満ちあふれるようになるためです」

確かに感情的に信じたり、信じなかったりするものではありません。しかし、神様は人間に感情を与えて下さいました。その中でも喜びの感情は素晴らしいものですし、福音は私たちに喜びを与えてくれるものです。いつも喜んでいられるように、常に御言葉を読み、御言葉に生きる生活を心がけたいものです。この福音の喜びが実現するためにヨハネが大切なこととして教えているのは、光の中を歩み、神様と交わりなさいということです。

第一ヨハネ 1:5～7 「わたしたちがイエスから既に聞いていて、あなたがたに伝える知らせとは、神は光であり、神には闇が全くないということです。わたしたちが、神との交わりを持っていると言いながら、闇の中を歩むなら、それはうそをついているのであり、真理を行ってはいません。しかし、神が光の中におられるように、わたしたちが光の中を歩むなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血によってあらゆる罪から清められます。

神様は光であり、闇が全くありません。神様が光の中におられるように、私たちが光の中を歩むなら、神様との交わりの中に入ることができます。そして、イエス様の血によってあらゆる罪から清められます。ここに救われた者の喜びがあるのです。

【月曜日・罪責感からの解放】

ローマ 8:1 で、パウロは「今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません」と教えています。罪があったとしても、断罪されることは一切ないということです。これが成立するための唯一の条件は、キリストに結ばれているということです。原語では「キリストの中にある者」となっています。このような表現をパウロは聖書の中で 120 回以上も使っていますが、当時のギリシャ語の表現としてはあまり聞きなれない奇異に感じるものだったようです。ある意味、パウロが作りだした表現ともいえるかもしれません。他の箇所では「キリストにあって」とか、「キリストにある者」などと訳されていますが、パウロは私たちがキリストにあって一つに結ばれるという神秘的かつ霊的な状態にあることが、罪に定められない鍵となると考えていたわけです。常にキリストの中に身を置き、キリストに頼りながら生きる。心は常にキリストと共にあり、この世を彷徨うことはないのです。そのような状態にあるとき、罪に定められることがないことを知ります。ゆえに、罪責感などに苦しめられることもありません。他人は責め立てることがあるかもしれませんが、そして、それはその通りのこともあるかもしれませんが、しかし、神様は罪に定めることがないのです。この圧倒的な解放感の中に生きているのがキリストの中にあるクリスチャンなのです。

ある牧師が説教中に、その牧師に批判的な男性が声をあげて、「私はあなたがどんな酷い罪を犯してきたか知っている」といって説教を妨害しました。教会の中は気まずい雰囲気になりました。ところが、そのときこの牧師はこう言ったのです。「兄弟、その通りです。私はたくさんの罪を犯してきた罪深いものです。でも、イエス様によってすべて赦されました。一切の罪が赦されたのです。ハレルヤ」と。あまりの確信に満ちた牧師の言葉に、その男性は何も言えなくなってしまったそうです。

【火曜日・新しい契約と新しい心】

神様を信じるようになると、生まれ変わり、新しい心を持つようになります。これは誰もが経験することですが、考えてみればとても不思議なことです。新しい心は、神様の教えである律法が心の中に書き記されると共に、イエス様が心の中に住んでくださることによって起こります。

エフェソ 3:17 「信仰によってあなたがたの心の内にキリストを住ませ、あなたがたを愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださるように」

律法だけが書き記されるなら、その重荷に耐えられなくなってしまうかもしれません。しかし、律法が喜びとなり、神様の御心を生きることができるようにと、私たちの内側から主が助け導いて下さるのです。これは実際には聖霊の働きです。私たちがイエス

様の中にあるように、聖霊を通してイエス様も私たちの中に住んでくださるのです。これにより、その結びつきはより強固なものとなります。たとえば、サーカスの空中ブランコを見たことがあると思います。一人はブランコに足をひっかけてさかさまになり、もう一人が勢いよく飛んでくるのを待ち構えています。彼は飛んでくる人よりもたいてい力があります。飛んでいくほうはといえば、とにかく待ち構えているブランコ乗りの男性に勢いよく向かっていき、その手をつかもうとします。時には方向やタイミングが少しずれてしまったり、目隠しして飛んでいくこともありますが大丈夫です。待ち構えているブランコ乗りの男性がしっかりと手をつかんでくれるからです。しかし、お互いにしっかりと手をつなぐことができれば、力強さはもちろんのこと、安心感も増すことでしょう。同じように、私たちはキリストの中にあつていつもしっかりと守られています。私たちが身を委ねているかぎり、主は力強いそのみ手を離すことはありません。それと共に、私たちもイエス様の手をしっかりと握ることができるなら、さらにその関係は強まることでしょう。

新しい心が与えられるとキリストの愛がわかるようになります。

**エフェソ 3:18, 19「キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり…」**

キリストの愛を知る者は、そのキリストの愛に根ざし、キリストの愛にしっかりと立つ者となります。つまり、新しい心が与えられることによって、新しい愛の人となるのです。これが神様に属する人のあるべき姿だからです。第一ヨハネ 4:16 では「愛によって造り上げられてゆくのです」と表現されています。またヨハネは次のように語っています。

**第一ヨハネ 4:16「神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってくださいます。4:17 こうして、愛がわたしたちの内に全うされているので、裁きの日に確信を持つことができます。この世でわたしたちも、イエスのようであるからです。4:18 愛には恐れがない。完全な愛は恐れを締め出します」**

神様は愛なので、愛にとどまることは神様の内にとどまることと同じであり、内側でますます神様の愛が全うされていき、ついに恐れが無くなるのです。罪に定められることがないと神様の愛の中で確信を得るので、裁きも怖くなくなります。

#### 【水曜日・新しい契約と永遠の命】

罪が赦されるということは、言葉を換えると永遠の命を持つということです。イエス様は、「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか」(ヨハネ 11:25, 26)と言われました。これは確定した事実ですが、信じなければ喜びや希望とはなりません。イエス様を信じる者は決して死ぬことはないと言われました。これはたとえ死んでも必ず眠りから覚めるときが来るということです。肉体は朽ちても、内なる人は永遠の命を得ているので、眠りから覚め、永遠に生き続けるということです。このイエス様の約束のポイントは、ご自分が「私は復活であり、命である」と教えられていることです。私たちに復活の力があるのではなく、イエス様にあるのです。私たちに永遠の命があるのではなく、イエス様にあるのです。それを信仰により、恵みによっていただいたのです。だから、もう恐れることは何もないのです。これは主が私たちと交わされた約束であり、契約なのです。

#### 【木曜日・新しい契約と宣教】

永遠の命が与えられている私たちは、どのように生きたら良いのでしょうか。イエス様は弟子たちに使命を与えられました。**マタイ 28:19, 20「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授けあなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」**永遠の命がある、罪がすべて赦されるにも関わらず、それを知らずに希望のない人生を、あるいは罪責感にさいなまれる毎日を送っている人がほとんどです。この喜びを伝えることができるのは、この喜びの中に生きている者たちだけです。この福音宣教の使命は、特定の人にのみ与えられているではありません。この働きを通して、主が世の終わりまで私たちと共にいて下さることを知るのである。